

# 令和5年度 学校自己評価書（川南町立山本小学校）

項目	評価指標 及び 具体的目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
			項目	総合	
Ⅰ 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進					
1	家庭教育の充実に努める。 ・家庭教育の支援 ・個人面談等を生かした子育て不安等の解消	・個人面談や、SC、SSW等と連携を図った家庭教育の支援を推進する。 ・家庭教育学級の研修会等で子育て支援を図る。	3.5	3.5	○必要に応じて保護者を対象とした教育相談を実施するなど家庭教育の支援に努めてきた。 ○家庭教育学級において、保護者の要望を生かした内容を取り入れ、会の充実に努めた。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。 ・地域の人的、物的資源の積極的な活用 ・家庭と連携した健康教育、食育の充実 ・学校運営協議会委員を生かしたPTA活動の活性化	・学校と家庭、地域との連携を図った教育活動の推進を図る。 ・学校運営協議会や、町教委からの指導・助言を生かした取組の推進を図る。	3.5		○米作りや奴踊りや運動会、など多くの教育活動で地域や保護者の協力を得ることにより、取組を充実させることができた。 ○学校運営協議会において、①挨拶②読書活動推進③家庭の教育力向上④郷土愛の育成を目標に掲げ、その実現に向けて取り組んできた。 ○町教委と常に報告・連絡・相談の中で、指導・助言を受けながら、本校教育の充実に努めてきた。
Ⅱ 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進					
1	読書活動を推進する。 ・学校図書館活用の充実 ・町立図書館との連携 ・読み聞かせ、ファミリー読書の推進 ・各種作文応募、新聞等への投稿促進	・町図書支援員と連携し、図書室等の読書環境の整備と充実を図り、必要に応じ、町立図書館の活用を積極的に行う。 ・読み聞かせやファミリー読書に参加させる。 ・宮日子ども新聞の活用を図り、作文の投稿を積極的に行わせる。	3.8	3.1	○学校図書館の充実及びその積極的な利用についての呼びかけ、花咲き会の方々の読み聞かせ等より、読書量が大きく伸びた。 ○学習で活用する本を届けていただくなど、町立図書館との連携が読書活動の推進につながった。 ○宮日新聞への投稿や地域広報誌における掲載などを通して、書く活動への意欲が高まった。
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ・「分かった、できた」と児童が自信をもって言える授業改善及び家庭学習の充実 ・望ましい学習習慣と読解力の育成(主題研) ・情報モラルを身に付け、ICTを活用できる児童の育成	・少人数を生かした授業を推進し、個別最適な指導方法の工夫改善を行う。 ・CRT等、各種テスト等を分析し、読解力の育成につながる授業改善を行う。 ・タブレットを活用し、学びを支援していくとともに、情報モラル教育を充実させる。	3.0		○少人数の特性を生かし、個別最適な学びを保証する授業づくりを追求し、全職員でその実践に取り組んだ。 ○読解力を高める授業研究を年間を通じて実施し、研修を重ねながら、実践的な研究を行ってきた。 ○ICT支援員の活用により、教師の指導力向上や児童のスキル向上が図られた。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ・「山本小当たり前のこと3か条」の指導及び教育活動全般を通じて、自己肯定感の育成 ・いじめの未然防止及び自他の生命を大切に する道徳教育及び人権教育の推進	・授業や行事に積極的に参加させ、ほめることで、自己肯定感を高めさせる。 ・教育相談及びハートフル委員会の活動を通していじめの早期発見、解決、及び未然防止に努める。	3.2		○授業や学校行事、集会等において、より多くの児童が活躍できる場を設定し、頑張りをほめることで自信をもたせ、自己肯定感を高めるようにしてきた。 ○毎月のアンケートや教育相談、ハートフル委員会での手立ての構築などを通して、いじめ等の早期発見及び早期解決を図ることができた。
4	特別支援教育を推進する。 ・校内組織の充実及び関係機関との連携 ・個別の教育支援計画、指導計画の共有及びその活用 ・通級指導教室(川南小)との連携	・特別支援教育コーディネーターを中心に、校内研修を実施し、職員の意識を高めるとともに、関係機関との連携を推進する。 ・通級指導教室を活用したり、支援員の活用を図ったりしながら、学校全体で行う組織的支援の充実に努める。	3.2		○校内特別支援委員会及び日常の情報交換等を通して、全職員で情報を共有するとともに、支援の方向性を協議し、対応することができた。 ○川南小の通級指導教室との連携や児湯るびなす支援学校コーディネーターの指導助言を受けながら、組織的支援の充実に努めてきた。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ・「みどりの少年団」の活動の充実 ・「Team Kawaminami学びのネットワークづくり事業(地域学校協働本部事業)」の活用	・4～6年生参加のみどりの少年団の活動を地域に広げ、年間を通して充実させていく。 ・「ふるさと学習」において、体験的な活動や問題解決的な学習を行う上で、地域や地域人材との関わりを一層充実させる。	3.1		○みどりの少年団では、校内緑化活動推進に加え、「緑の募金活動」で意欲的に活動する姿が見られた。 ○地域の方々の協力により、様々な体験活動等への取組を通して、地域人材とのかわり合いを深めるとともに、地域社会に参画する態度や、郷土を愛する心を育成することができた。
6	キャリア教育を推進する。 ・幼保小中との連携、及びキャリアパスポートの活用 の推進 ・学年の発達段階を考慮したキャリア教育の見直しと計画的な実施	・児童が作成したレポートや作文などの記録をしっかりと残り、活用していく。 ・「目指す児童像」を明確にし、発達段階に応じた「かかわる力」「見つめる力」「追究する力」「見通す力」の実践化に努める。	2.6		○キャリアパスポートを活用し、学習や学校生活の目標を設定し、達成度を自己評価することにより、自己の成長や課題を把握させることができた。 ○発達段階に応じたキャリア教育の系統的な指導については、より一層の指導の工夫必要である。
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ・ICTを活用した授業づくりの推進 ・ALT活用による国際理解教育の推進	・ICTを活用した分かりやすい授業の実践をしたり、児童自らがICTを活用して「主体的・対話的で深い学び」の機会を増やしたりする。 ・外国語活動におけるALTとの連携を図り、国際感覚をもたせ、コミュニケーション力を伸ばす。	3.4		○ICTを活用した授業を積極的に取り入れることで、思考の視覚化や情報の共有化が促進され、児童の主体的な学びを促すことができた。 ○ICTをどのタイミングでどのように取り入れるよりと効果的か、さらに研修を深めていく必要がある。 ○ALTの活用により、ネイティブな発音及び海外の文化に触れることで、児童の国際感覚が磨かれた。
Ⅲ 教育を支える体制や環境の整備・充実					
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ・「チーム山本小」としての組織的取組の推進 ・新しい研修制度を生かした教職員の資質向上の推進 ・業務の精選及びコンプライアンスの徹底	・学校組織マネジメントを活用し、学校組織の活性化を推進する。 ・校内研修やOJTを活性化させ、主体的に研修に取り組める環境を整備する。 ・校務支援システムの活用を図り、児童と向き合う時間を確保する。	3.4	3.4	○計画(Plan)-実施(Do)-評価( Check)-改善(Action)サイクルにより、学校組織を円滑に運営し、経営ビジョンの具現化を目指した組織的な取組を推進してきた。 ○校内研修の取組を充実させることで、読解力育成に向けた授業改善や少人数の特性を生かした授業の推進を図ることができた。また、校務支援システムの活用により、業務の効率性を高めることができた。
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ・「自分の命は自分で守る」安全教育・防災教育の充実 ・安全点検の効果的な実施 ・基本的な感染症対策の継続	・児童が主体的に行動できる実践的な感染対策や防災教育等を推進する。 ・敷地内の環境について、職員、児童の目線 で安全点検を実施する。 ・新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営に取り組む。	3.5		○安全・防災教育に関する行事を確実に実施することができた。特に、児童と教師が一緒に行う安全点検は、危険察知能力育成の観点から有効だった。 ○新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ予防のため手洗い・うがいの徹底、家庭との連携により、感染を最小限にとどめる取組を継続してきた。
Ⅳ 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進					
1	学校体育の推進に努める。 ・学校体育の充実による体力向上 ・地域スポーツ団体との連携や国民文化祭への作品応募や参加の推進	・「体力向上プラン」を基に、分析結果を生かした体育の授業の充実に努める。 ・スポーツ少年団との連携を図ったり、文化・スポーツイベントへの積極的な参加を促したりすることで、文化やスポーツに親しませる。	3.2	3.2	○運動会や持久走記録会に向けた練習などを通して、児童の体力を高める取組を行うことができた。 ○体力テストでは全国平均を超える種目も多かったが、平均値を下回るものについては、次年度以降、強化を図っていく必要がある。